

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム金刀比羅		
所在地	福岡県北九州市戸畑区金比羅町4番29号		
自己評価作成日	平成22年5月24日	評価結果確定日	平成22年7月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年6月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、推進委員を中心に地域との繋がりをさらに深めていける事を目標にスタッフ一同取り組んでいきます。また、他事業所の方々の合同勉強会は今後も積極的に企画し、スタッフの考え方に広がりを持てるよう努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな公園や山、池等の自然に囲まれた場所に位置するホームであり、四季折々の景色を肌で直に感じる事が出来る環境である。その反面、近くに民家がないというマイナス面もあるが、今年はそのマイナス面をプラスに変えていくことを目標として、今まで以上に、積極的に地域への働きかけを行って行くことを目指しているところである。そのことに加え、今年は「自主性」ということについても目標として掲げており、各職員が個々の能力に合わせて、それぞれに見合った目標を達成していくことが出来るように取り組んでいる。そのような向上心豊かな職員達に見守られ、入居者もそれぞれの能力に応じて、得意なことや出来ることに積極的に取り組んでいる。みんなの笑顔と楽しい話し声に包まれた空間の中で、穏やかな時間が流れているホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各所に掲示し意識を高め、おひとりおひとりのニーズにこたえられるよう努力している。	大元の理念があるが、その中から特に力を入れたい部分をひとつ抜き出し、それを実行するようにしている。昨年は「向上心」という部分を掲げ、今年は「自主性」という部分について掲げ、全員で取り組んでいるところである。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する建物の行事に参加したり、散歩中に出会う方々と挨拶をかわしたり、日常的な交流を行っている。	近隣に民家がない環境で、なかなか地域との関わりが取りにくい状況であるが、散歩の時に会った人たちと挨拶を交わしたり、法人で行う祭り等の時に来てもらう等の交流は出来ている。	今年もっと積極的に地域に出て行くということを目指しているところである。環境面でのデメリットをクリアするためにも、目標達成への実践的な取り組みを行っていく予定としている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治体の方の見学を受け入れ説明を行った。今後ももっと地域に貢献できる活動を行って行きたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご家族だけでなく入居者にも会議に出席していただき、サービスの向上に対する意見を頂いている。	地域の自治会長を始め、地域包括支援センターの職員、地域のボランティア、入居者やその家族等が集まり、率直な意見を出してもらいながら、話し合いを行っている。	昨年は5回しか開催されていない状況であり、地域の方々の出席がない回も見られた。今後は2ヶ月に1回、定期的に開催していくことが求められる。また出席メンバー構成の拡大等により、広く意見を求め、会議が更に活性化するよう取り組んで欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や情報収集等は、行っているが連携を密にとっているかという点では、課題が残る。	わからないことはすぐに相談に行くようになっている。また、グループホームの実情について理解してもらえるように、積極的に働きかけを行っているところである。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束に対する勉強会を行っている。建物の構造上エレベーター前の空間が死角となっており、入居者の安全を確保するためにご家族の了解を得てカギをかけている。	各階はエレベーターによる出入りとなり、家族との話し合いにより施錠されている。運営推進会議等を活用し、関係者全員で施錠の弊害や予測されるリスク、事業所としての対応の工夫等を話し合い、理解や認識を深めていく機会を確保して欲しい。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的に勉強会を行い職員への理解と意識付けを行っている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待防止に関連し成年後見制度についてパンフレット等を利用し回覧したり会議の場で勉強している。	外部研修を受講した職員があり、その内容を他の職員に落とし込んでいる。またパンフレット等も準備しており、相談等があればすぐに対応出来るようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学、説明をして理解を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進委員会等で意見を頂きそれに対し管理者、職員で速やかに改善するよう、心がけ報告する場も設けている。介護サービス相談員の受け入れも月に1回おこなっている。	運営推進会議に出席してもらった時や、面会時に話をして、意見を吸い上げるようにしている。また、直接言いにくいこともあるかもと考え、意見箱も設置している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に自己申告書を配布し職員とのヒヤリングを実施している。又、全体会議での意見交換などを反映するようにしている。	職員に年1～2回自己申告書を配布して記載してもらい、それぞれの職員とヒヤリングして意見交換するようにしている。またボトムアップを意識して、職員の意見の反映を行うようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会に参加した職員により所内勉強会を実施している。また、法人からは永年勤続者へ報奨金の支給や資格取得に手当てを支給するなど配慮している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ヒヤリング個人面談を実施し本人の希望や能力が生かせるよう配慮している。	職員の採用時は、施設長及び管理者が面接を行い、採用を決定している。事前にグループホームとはどういうところかということの説明し、十分に理解してもらった上で勤務してもらっており、採用後も、それぞれの希望や能力が発揮できるように配慮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議及び勉強会の場を通して知識を深められるように取り組んでいる。	外部研修を受講した職員があり、その内容を他の職員に落とし込んでいる。また、普段の会議や勉強会の中でも話をしており、啓発に努めている。法人内に配置されているコンプライアンス担当者より、研修等行ってもらうことにより、法令の部分と合わせた教育についても検討して下さい。	

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間スケジュールを立て全員が参加できるように配慮している。又、所内勉強会を実施している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「交流会」と称し、他事業所への訪問や合同勉強会を行っている。又、地域ケア研究会には輪番制で参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常時、話ができる雰囲気をつくり安心して生活ができるよう努力している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談室を設置し落ち着いた空間で話せる環境を整えて随時相談を受けられるようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じてデイサービス、ショートステイの利用などの対応を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活で職員が学ぶ場も多い。入居者の方々と寄り添い一緒に生活する事で支えあいの関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会時には、出来るだけ十分な情報交換を行い、支えあう努力をしている。また、要望には、その都度対応し早期解決を目指している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会は頻回であり、今まで作り上げてきた関係を継続できるよう支援している。	これまでの馴染みの関係が途切れないように、家族や友人にはなるべく面会に来てもらうようにしている。	

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	声かけに工夫し手を出し過ぎない様に行っ ている。合同でレクリエーションも行っており 入居者の方々が孤立しないように配慮して いる。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の相談を受けたり、関連法 人内の紹介も行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	個別ケア手順書を作成し誰が見ても把握で きるようにしており、ご自身やご家族からの 希望や意向を聞きケアプランにあげている。 また、定期的にかンファレンスを開いてい る。	センター方式を利用しながら、入居者それぞ れの思いや意向を把握出来るように勤めて いる。入居者本人からの聞き取りが困難な場 合には、家族にも協力してもらい、入居者本 人の思いを引き出す努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居者の談話や家族の面会時に情報収集 し把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々、状態観察を行いケース記録に記入し 申し送りを徹底している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	アセスメントシートやセンター方式を活用し 現状を把握した上で関係者と意見交換し課 題を見直しながら介護計画を作成している。	介護計画については、3ヶ月に1回は見直し を行うようにしており、現状に即した計画を作 るようになっている。また、アセスメントについ ては、センター方式を利用しており、生活歴か ら現状まで、入居者について詳細まで把握出 来ている。	アセスメントで詳細を把握できているの にも関わらず、それが介護計画にうまく 反映していない部分が見られた。入居 者がどのような生活を送りたいのかとい うことを再度皆で検討し、目標達成に向 けた計画を作成していくことが望まれる。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録やスタッフノートに 記録し、職員間で情報を共有しながら行っ ている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常は3ヶ月に1回のアセスメントを行い、ご家族との情報交換や意見交換も密に行いながら多様なニーズに対応できるように取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや近隣の店舗のリサイクル活動に参加する等、入居者の能力に応じた活動に参加している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご自身やご家族の希望を重視しかかりつけ医との連携を図っている。	入居者及びその家族の希望を聞いた上で、法人内の診療所を受診してもらったり、元々のかかりつけ医を受診してもらったりしている。また、心療内科から週1回往診にも来てもらっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所と隣接しており、看護師の巡回が組まれているため、相談が出来る。健康管理日誌があり状態報告が出来るシステムがある。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるように医師やソーシャルワーカー、看護師長などと情報交換を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を確立している。ご家族と職員全員で協力体制を整えている。	今のところ、重度化した場合や終末期については法人内の診療所に対応しており、グループホーム内での看取りの経験はない。その旨について、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、契約時に家族に説明を行い、同意を得ている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や訓練を行い緊急時の対応能力を身に付けている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル化しており、全職員に周知徹底している。また隣接施設や地域の方々にご協力いただき定期的に避難訓練を実施している。	年2回、法人全体で避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っており、万が一の場合に備えている。訓練時には地域のボランティアや消防団の方にも参加してもらい、協力体制を構築している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとり、お一人の人格やプライバシーに配慮しながら声かけや、対応をしている。また、新規職員にも指導を行っている。	プライバシーの配慮については、勉強会等も開催しながら、日ごろからそれぞれが十分に気をつけて対応していくように心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかること、わからないこと、できること、できないことの見極めを行いおひとりお一人にあった声掛けや支援を行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に応じてお一人お一人のペースに合わせ臨機応変に対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	環境整備や一人ひとりの好みを把握し、出来る限りご自身に選んでいただけるよう、工夫している。月に1回、訪問理美容を実施している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は、準備から片付けまで一緒に行っている。不定期ではあるが、食事作りやおやつ作りも行い、好評を得ている。	入居者の能力に応じて、配膳や片付け等を手伝ってもらったり、時々職員と一緒に食事やおやつを作ってもらったりする等、食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人所属の、管理栄養士の指導により栄養バランスの取れた食事を提供している。食事・水分の摂取量は、職員がチェックし食事形態はご本人様に合わせ、おかゆやキザミなど個別に対応している。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員全員が把握できるように生活パターンシートを利用している。失敗せずに排泄できるように支援したり、失敗しても傷つかないような声掛けを工夫している。	それぞれの入居者の排泄パターンを把握し、なるべく失敗がないように言葉かけや介助を行いながら支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の方々に合った飲食物を用意し、日中活動的に動いてもらうことで便秘の予防に心がけている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間はある程度決まっているが、無理強いしたり、急がず事無く、タイミングを合わせゆっくり気持ちよく入浴を実施している。	無理強いすることがないように、それぞれの希望やタイミングを見計らって入浴を促している。1階には大浴場もあるので、大勢で入浴したい入居者にはそこを利用してもらっている。また、出来るだけ同性介護にて介助できるように配慮している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じて休息してもらったり、夜間個々の時間帯に合わせて休んでもらっている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はすべて管理しており目的、用法、用量は把握している。疑問があれば主治医や薬剤師に問い合わせている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意な分野で活躍できるように場面作りをし、達成感を味わってもらっている。個々にあった役割を考えて対応し、感謝の気持ちを伝えている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者の方々の希望に添い出かけているが、職員が対応できないときは、ご家族にお願いしている。</p>	<p>入居者の希望を聞いて、なるべくその意向に沿うようにしている。外食や温泉等に行きたいとの希望が出ることもあるが、職員で対応出来ない時もあり、その時は家族に協力してもらいながら支援している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額の現金は、自己管理されており、一人ひとりの希望に添って買物に出かけている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの手紙やプレゼントが届いたときは代筆したり、希望があれば電話も掛けている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同空間には季節に合った花や壁画を作り、居心地よい空間作りに勤めている。音の大きさや採光にも不快にはならないよう調整している。</p>	<p>リビングには大きな窓があり、外からの明かりが差し込み、明るくて居心地のいい場所になっている。また、レクリエーションで入居者が作った作品や季節の花等が飾られ、それぞれの季節を感じることが出来る空間作りがなされている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング内ではゆっくりとくつろげるよう、空間を配置し、自由に過ごせる工夫をしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、ご本人やご家族とよく相談し使い慣れた家具を配置したり趣味のものなど持参して頂き居心地の良い環境づくりをしている。</p>	<p>居室には家庭で使い慣れた家具や家族の写真等が飾られていたり、中には仏壇を持ち込んで入居者もあり、それぞれが自分らしく過ごすことが出来る環境作りがなされている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレには看板をつけ、居室の入口には、表札や目印になる飾りをつけたりひとり、一人の身体能力に合わせて室内のレイアウトをするなど工夫している。</p>		